

Global Balanced Risk Control Team

2023: Rebalancing in a Year of Transition (スクリプト 参考訳)

転換期におけるリバランス

2023 年は転換の年になるかもしれません。

2023 年に向けての 4 つの要因は：

1. インフレ率のピークアウトと低下
2. 中央銀行が引き締めサイクルを終了し、一部は緩和の方向に向かう
3. 米ドルの安定化（あるいは多少のドル安）
4. 中国が「再開」する可能性

額面通りなら、2023 年は 2022 年の巻き戻しが見られる可能性があると思われます。確かに、政策金利の上昇が止まり、インフレと成長率が低下する可能性を考えると、債券投資家には追い風が吹いているようなものかもしれません。また、株式の収益も圧迫されるかもしれません。

完璧なソフトランディングのシナリオであれば、このような展開になるかもしれません。しかし、歴史を振り返れば、物事はそう単純ではありません。

多くのことがインフレの行方に左右されます。インフレ率は低下するだけでなく、持続的に低下する必要があります。また、このソフトランディングのシナリオには大きな課題があります。エネルギー価格は硬直的であり、また、サプライ関連の要因で上昇する可能性もあり、世界的な価格圧力に拍車をかける可能性があります。これは、中国市場と活動の再開により、さらに悪化する可能性があります。米国では、住宅価格の下落が遅れる可能性があります。これらすべてが、インフレ率の軟化、ひいてはソフトランディングそのものを否定する材料となります。

リスクシナリオとしては、インフレ率が持続的に低下しない場合、中央銀行は利上げサイクルを再開する必要があるか、少なくとも将来の利下げが織り込まれなくなる可能性があります。これはベースケースではなく、リスクケースです。とはいえ、現在市場で織り込まれているより可能性は高いでしょう。

ここで重要なのは、2023年を通じて、平均よりも高いボラティリティが続く可能性が高いということです。

ポートフォリオのポジショニングは、2023年のこれらのリスクに対してダイナミックにリバランスする必要があります。年間を通じてこれらのリスクに焦点を当てた適切な資産配分とリバランスを行うことで、魅力的なリスク調整後リターンを創出する機会が生まれるでしょう。

重要事項

当資料の複製、公衆への提示・引用および販売用資料への利用はご遠慮ください。

当資料の予想や見解は、必ずしもモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの会社としての予想や見解ではありません。また予想や見解が実際に実現するとは限らず、将来のパフォーマンスを示唆するものではないことにご留意ください。当資料の情報はモルガン・スタンレーの金融商品にかかわるものではなく、また商品を推奨するものでもありません。当資料で表明された見解は執筆時点の筆者の見解であり、市場や経済、その他の状況による変化を免れません。

これらの見解は推奨意見ではなく、広範な経済テーマの説明としてご理解ください。

当資料は情報提供のみを目的としたものであり、金融商品取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。また、商品の売買の助言もしくは勧誘または当社が提供するサービスに関する勧誘を意図するものではありません。当資料に含まれる情報は信頼できる公開情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性あるいは完全性を保証するものではありません。当資料で表示している過去の実績は、必ずしも将来の結果を保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りのない限り原書執筆時点現在のものです。また、当資料に示す意見は、特に断りのない限り原書執筆時点の見解を示すものです。当資料で表示した分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性があります。

当社およびモルガン・スタンレーは、当資料に含まれる情報を利用し、信頼しまたは利用できなかったことに起因する一切の直接および間接の損害に対する責任を負いません。

モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第410号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、

一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会